

「もとはこちら」のお話し

36 今月のテーマ 生まれる命は 場所を選ぶ

2009年(平成21年)12月19日(土)



平成11年1月15日
致知出版社発行

身に覚えのない事は 身に覚えのあることよりも 根が深い

(生き続けている根は、縁がそろえば芽を吹き出す)

(平井謙次作 日めくりカレンダーより)

少し前に読んだ本ですが、その中で繰り返し書かれていたのが、「もしも願いが叶うなら、今度は金髪の美女の国に生まれてほしい」。それは生命科学の分野に属する、いわゆる固い内容の本でした。

不倫や恋愛ものを得意としてその名を馳せた三文作家の本ならいざ知らず、内容が真面目なものであっただけに、読みながらどうにも違和感が付きまといました。著者は確か初老の男性だったように思います。

さて金髪が好きかどうかは別として、「今度生まれ変わったら」とは、私達もよく口にする言葉です。

「今度は男に生まれたい」「いやいや、女の方がいい」とか、「今度生まれるなら、絶対にお金持ちの家に生まれたい」。あるいは、「何がなくても健康な身体で生まれたい」などと、口にする望みは人夫々です。

勿論、中には「今のままが一番いい」という人もいます。わいわいとこういふ話をする時は、みんなとても楽しそうです。

五歳まで生きられない、という現実

ところで先日、国連機関のある処から手紙が届きました。封筒には大きな文字で、「生まれる命は、場所を選べない」と記され、あどけない幼子が大きな瞳でじつとこちらを見つめています。

アフリカでは五歳まで生きられない子供が六人に一人もいて、年間五百万もの子供が命を失っているそうです。

一日に換算して、なんと一万四千人という計算になります。死因の約半分が栄養不良や感染症によるものであり、どうぞあなたの温かいご支援ご協力を、と結ばれています。

この切実な訴えは、飽食といわれる時代を生きる私達の心に強く訴えてくるものがあります。

外食産業も残食を減らそうと様々な工夫をしているようですし、またスーパーなどでも、売れ残りを減らす為の色々な工夫がなされているようです。



北原ゆり筆

しかしその努力も追いつかず、沢山の食べ物がいまも廃棄処分されているようです。また個々の家庭においても、賞味期限が切れたというような理由で、まだまだ食べられる物が、いとも簡単に捨てられているようです。

このように同じ地球の中で、そして今という時を共に生きながら、簡単な医療や食べ物にも恵まれず、苦しみながら死んで行く人たちがいる一方で、貴重な食べ物を次々と捨ててゆく豊かな国の人たちがいます。

また、戦争や内紛に明け暮れる国に生まれ、争いの中で短い一生を終える人もいれば、比較的豊かな国に生まれ、戦争も知らず、平和のうちに生涯を閉じる人もいます。

あるいはまた、温暖な気候で豊かな自然に恵まれた国に生まれてくる人もいれば、凍つく地に生まれ、厳しい自然の中で生きなければならぬ人もいます。

そしてまた同じ国の中でも、健康体で生まれてくる人もいれば、障害を持って生まれてくる人もいます。

もちろん金髪美人に生まれてくる人もいれば、醜女（シコメ）といわれる様な、今流に言えばドブスとして生まれてくる人もいます。そしてまた生まれる時代の違いということもあります。

出物・腫れ物、場所を選ぶ

この様にざっと見渡しただけでも、世の中には実に様々な人生があります。もしも自分で自分の人生を自由に選べるものならば、誰でも、気候温暖で戦争などのない平和な国、そして物も心も豊かで、できれば天変地異の心配などもいらぬ、そういう国に生まれてきたいと思うのではないのでしょうか。

また障害を抱えて生まれるよりも、できることなら五体満足で生まれてきたいとも思うのではないのでしょうか。

しかし現実はそのまゝありません。人も羨むような恵まれた状態で生まれてくる人もいれば、そうでない人もあります。

先の国連機関からの手紙の言葉通り、「生まれる命は、場所を選べ

ない」のです。

場所だけでなく、生まれる命は、時代も親も選ぶ事はできません。生まれてみれば、たまたま「こ」が自分の国であり、この時代であり、この親であったということなのです。

ところで、「出もの腫れ物、ところ構わず」という言葉があります。ちょっと困った場所におできが出来たような時、「勝手に出てきたのであって、自分で選んだわけではない」と、照れや困惑の表情でそんなふうにするのです。

しかし実際には、この出もの腫れ物にしても、出るには出るだけのちゃんとした理由があり、場所にしても、どこでも良いと言って、ところ構わず出てきたわけではありません。

できものが身体の中央線沿いに出ると、命に対して厄介な事になる場合があると言われていますが、医学的にみれば、こんなおできでさえ、出るべき場所をちゃんと選んで出てくるわけです。

ましてや人間ともあるうものが、ところ構わず、行き当たりバツタリに生まれてくるはずはありません。

実は私達人間も、自分の生まれる時代や場所、そして親をしつかりと選んで生まれて来ているのです。

絶大な力を持つ、潜在意識

しかし、できもの一つでさえ、自分の意思ではどうにもならない私たちが、一体どのようなにして自分の生まれる時代や場所を選ぶのでしょうか。

実は私達には自分で意識できる表面意識と、それとは別にもう一つ、潜在意識と呼ばれている無意識の意識というものがあります。

そしてこの無意識の意識は、先に挙げた表面意識とは比較にならない程の絶大な力をもっていて、私達の人生に大きな影響を及ぼし続けています。

潜在意識は過去における自分の生き様、即ち、その時何を想い、何を言い、何をしたかの、その一つひとつの全てを記憶しており、その結果に応じた姿を次々と表わし続けているのです。



そしてこの無意識の意識の、そのもつと深いところでは、集団無意識という意識があり、そこで私達は全ての人と完全に繋がっています。

繋がっているからこそ、例えばドラマなどを観ても、その登場人物をとて他人事とは思えず共感し、我が事として共に泣いたり笑ったりできるのです。

魂の奥深く、私達は全ての人と同じ感情、同じ思い、同じ運命を共有しつつ、一つの命として生きています。

大生命といわれる一つの命を土台にして、私達は一つの目的をもつて生きています。

その目的とは、今更改めて言うまでもない事ですが、全ての人が幸せになるという事です。



学び続ける魂

究極の幸せとは、誰かの不幸の上に成り立つような幸せではありません。また他と比較して感じるような、相対的な幸せでもありません。

条件次第で壊れるような幸せではなく、どんな中でも壊れることのない絶対の幸せです。その幸せを得るためには、私達は互いに協力し合い、寄り添い、生かし合い、そして支え合う事が絶対に必要なのです。この事を学ぶ為に、私達は色々な人生を体験するのです。

ある時は強者の立場、ある時は弱者の立場、男の立場、女の立場、健常者として、病人として等々です。

それは丁度、役者が次々と色々な役をこなしながら、成長していくようなものです。役柄は色々ありますが、なくても良いという様な役は一つもありません。すべてが必要な役ばかりです。

私達も生まれ変わり死に変わりをしながら、次々と役柄を変えていきます。その中で、どんな役を演じていてもそれは仮の姿であると同時に、自分自身であるという事を学びます。そして自他一如という事や生き通しの命という事を、潜在の意識である魂が深く学んでいくのです。

明日の運命、宿命を決める今の生き方

一人ひとりには、生まれながらの使命というものがあります。どいう使命が与えられるかは、過去の自分の生き方次第です。

そして与えられた使命を果たす為に、一番ふさわしい時代や場所、親などを自分で選んで生まれてくるのです。そしてこの人生を終えた後、次にどんな人生を送ることになるかという事も、今、何を想い、何を言い、何をしているかという事によって、必然的に決まってくるのです。

表面意識が決めるのではなく、魂であるところの深い無意識の意識、潜在意識が決めるのです。

一通の手紙を前にして、この幼子の中にもう一人の自分の姿を重ねて、今この自分にできることは何なのだろうかと考えます。

考える自由、考えない自由、考えた事を行動にうつす自由、うつさない自由、色々な自由が私達には与えられています。

自由の中で何を想い、何を言い、何をするかによって、明日の自分の運命・宿命、即ち生まれる時代や場所が決まってくるのです。自分の人生を決めるのは、自分です。



編集発行人

もとはこちら会 資料編集部 北原友也

専用HP <http://www.motoha-kochira.com>

mail: data3@motoha-kochira.com